

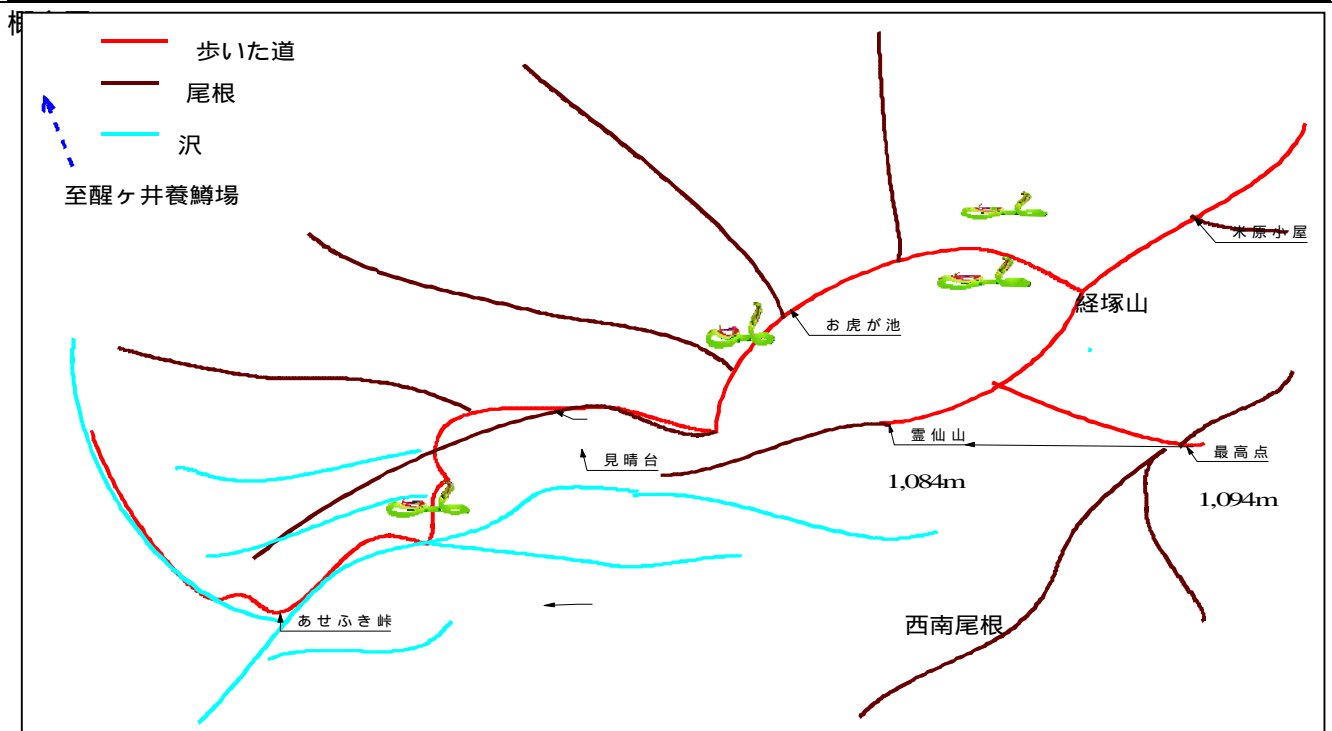
山行報告書

作成:2007年8月7日
愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	霊仙山	目的[方法]	ボッカ訓練
期間	2007年7月21日(土) 22日(日)	形態	テント携行避難小屋泊
参加人数	4人		

行動記録:

日程	コース (表記例: 鉄道 +++, 車 ==, 徒歩 ---, 所要時間 --:0:40--)
7/21 (土)	豊田IC(405) =1:00= 養老SA(5:05605) =0:05= 関ヶ原IC(610) =0:30= 醒ヶ井養鱒場(640) =0:15= 林道終点(655,750) -0:15- かなや(805815) -0:10- 汗拭峠(825) -0:35- 四合目(9:00,9:10) -0:50- お虎ヶ池(10:00) -0:35- 経塚山(1035,1045) -0:10- 米原小屋(1055)TS1
7/22 (日)	TS1(8:20) -0:15- 経塚山(8:35) -0:25- 霊仙山(900,9:15) -0:25- 最高点(940,1000) -0:25- 経塚山(1025,1040) -0:25- お虎が池(1105) -0:35- 見晴台(1150) -0:25- 汗拭峠(1215) -0:10- かなや(1225,1230) -0:12- 林道終点(12:4213:00) =0:25= 醒ヶ井駅(13:2513:30) =0:20= 薬草風呂「ジョイ伊吹」(13:50,1500) =0:05= 蕎麦「伊吹野」(1505,1545) =0:20= 関ヶ原IC(16:05) =0:45= 養老SA(1235,1245) =0:50= 豊田IC(1335) =0:30= 岩津市民C(1405)



日誌: 1 日目 台風の接近による梅雨前線の刺激により金曜の夜から雨が降り出した。当初の計画(白山北部からの登頂)は中止にし、鈴鹿「霊仙山」ボッカ訓練に変更になった。林道終点の東屋で2泊3日の荷物を1泊2日に詰め直し出発をした。夏の雨の日の装備の仕方は、カッパを装着することで内側からも蒸さるので「傘」が効果的であることを知った。しかし、このときの足元の装備のよしあしが後からのヒルの攻撃に対して明暗を分けた気がする。「かなや」の休憩場所で最初のヒルを1女が発見をする。湿っぽい場所であるから仕方ないと考えていたが、考えてみればその日は雨が止むことなく降り続くヒルにとって絶好のヒル日和であったわけである。登りは荷物の割には軽快に進むことができた。見晴らし台からサル岩までの樹林帯はヒルの宝庫であった。お互いに前の人の服装を見ながら進む。天候が回復しないので休むこともせず、米原小屋に直行する。小屋入って、カッパを脱ぐと大騒ぎ、先頭を歩いていたA女に何匹ものヒル…ダニまでもが。女3人の悲鳴と怒号が入り混じる。全員がヒルに血を吸い取られるはめになったが、ヒルを防ぐにはカッパとスパッツが効果的であることが分かった。ヒルの話題が尽きない中、ロング宴会を昼日中から夕方まで挙行。歌あり、まじめな山談義あり…でした。時折出て来るクモなどはヒルに比べたらかわいいもんでした。1女謹製のチキンの蜂蜜煮心がこもっていておいしかったな!

2 日目 起床後装備点検とパッキング講習をする。経験者がいかに合理的にパッキングをしているかを学ぶ。外は霧。30年ほど前の霊仙山の遭難を思う。地形的にも分かりにくい地形だ。経塚山から霊仙山頂まで霧の中を独歩行をするようにリーダーから指令が出る。地図とコンパスを頼りに進むが、5メートルも歩けば先が見えないから何となく不安になる。地図とコンパスを離さず歩く。CLとSLが無線で安全の確認をする。最高峰までも独歩行。単独行というのはいつも位置の確認をしていかないといけないと感じた。下山は、ヒル対策を十分に行って一気に駆け下りたが、到着して装備をはずしてもスパッツの中にヒルを発見。車の中でも発見! 本当に手ごわいやつであった。

感想: 教訓 鈴鹿の山は6月、7月、8月は登らない事! ヒル天国であります。女3人は心に誓ったのであります。